れきみん
となん歴民だより vol.26

Morioka tonan history and folklore museum

平成23年3月22日発行

発行　盛岡市都南歴史民俗資料館　盛岡市湯沢1-1-38　℡/Fax 019-638-7228

特別企画展「平成21・22年度新収蔵資料展」展示風景

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

・〈収蔵資料解説〉
　都南の馬事古文書（その2）

・平成22年度寄贈資料の概要

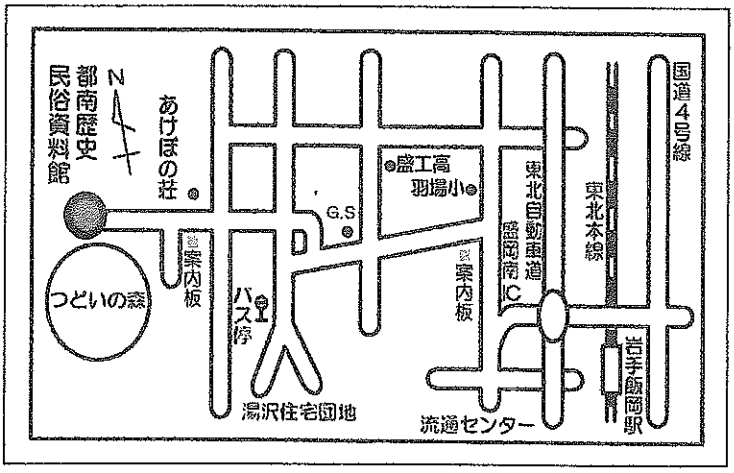
・平成23年度行事予定

・盛岡市所在
　　指定・登録文化財紹介㉖

・資料は語る㉖

・となんの昔ばなし㉖

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間　午前9時から
　　午後4時まで

入館料　　無　料

休館日　　月曜日
　　（休日に当たるときは、
　　直近の平日）
　　年末年始

都南の馬事古文書（その２）

都南歴史民俗資料館
館長　古水一雄

前回の「収蔵資料解説」に引き続き、都南の馬事古文書について述べてまいります。前回は都南地区では秣の確保の難しいことにふれました。

秣はもちろん無料ではありません。「入山税金及舩場針金新規代割付帳」という明治 41 年の文書には、入山税として 8 円 80 銭、舩場新規栫代として 6 円 4 銭、舩場米として 2 円 8 銭、合計 16 円 92 銭が課せられ、それらを村内各戸で負担しているのです。明治 40 年前後の米価が 1 石 16 円ほどの時代ですからかなりの出費といえるでしょう。舩場や舩場守米が帳簿に記載されているのは、北上川を利用していたからであり、それもまた受益者負担とされていたからです。

さらには、嘉永年間（1848 ～ 1854）の古文書には西根山（場所は不明）の入山に関するものが残されていて、野火の管理や入会地の見回りの定めがあったことが記されています。野火の管理や入会地見回りのために小屋を建て、そこに２～３名の村人が交代で詰めて見張っています。

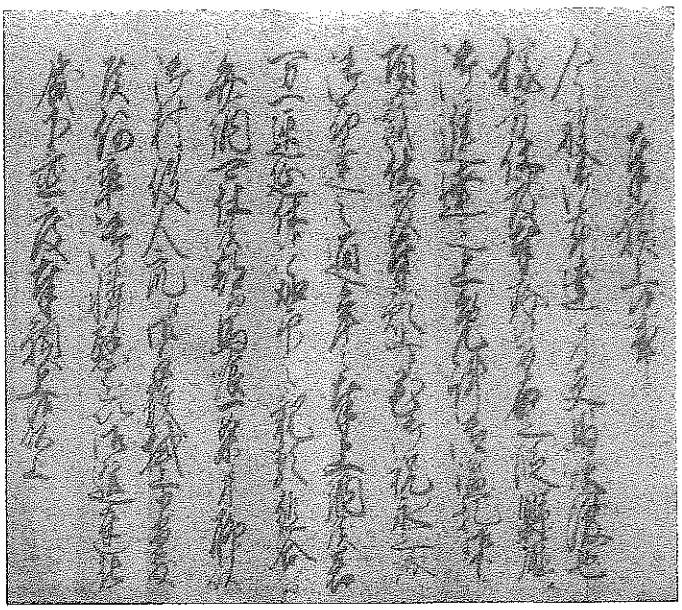
秣を採取できるのは年間 210 日と決められていて、違反者は翌年の入山を禁じています。一方違反者を取り押さた者には償金が与えられています。また、牝馬は繋いで置くといった決まりもあったようです。これは牝馬と牡馬が混在すると予定外の出産につながりかねないため、それを防ぐためであったと思われます。その意味では馬の頭数は厳重に管理されていたのでした。そして、秣場を使用する一人一人馬の頭数を記載する名簿が備え付けることも義務付けられておりました。

このような取り決めは近世から近代まで引き継がれております。この間様々な土地の所有や貸借に関わる争議もあったりしますが、入会地の慣行は昭和 30 年後半まで続いたことが確認されています。

明治に入って馬の頭数が増えると、馬を売買する専門の業者がでてきました。その業者を「馬喰」といいました。馬喰は免許制になっていて、仕事をしようとする者は村長を通じて県庁の知事宛に届け出を申請することになっていました。そして、一定の税金を払うことにもなっていました。もし、本人が支払いをできない場合には、願い書に名前を書いた親類や組合員が弁納する旨も誓約しています。

昭和 30 年後半になると農作業は急速に機械化されてきました。それにしたがって馬を使う農作業が衰退し、それと同時に入会地も不要となってしまったのでした。

奉願上候事
今般御布達ニ付更ニ馬喰渡世
稼方仕度奉致候間右之段縣廳江
御進達之上免許御鑑札御下ケ
頂戴仕度奉願上候尤御祝永之儀ハ
御布達之通年々奉上納候若
万一遅延仕候ハヽ加筆之親類組合ニテ
弁納可仕候都テ馬喰一条ニツキ聊以
御村役人衆江御手数掛上申間敷
候何卒御憐愍を以御進達被
成下置度奉願上候以上
（願い出人・受取人は欠落）



平成22年寄贈資料の概要

本年度は3名の方々と1団体から資料の寄贈をいただきました。寄贈者の皆様には改めて御礼申し上げます。また、本資料は、平成23年1月25日から2月25日まで行った「平成21・22年度新収蔵資料展」において展示させて頂きました。本誌では紙幅の関係もあり、その全てをここで紹介することはできませんが資料数とその概要をご紹介いたします。

ー寄贈者の方々と資料の概要ー

- **中村　秀雄　氏**
  台秤・一升瓶（計2点）

- **石川　萬次郎　氏**
  大工道具160点（現在整理中）

- **諏訪　道次郎　氏**
  図書44冊（馬関係の図書）

- **盛岡市消防団第21分団**
  都南消防団半纏・都南消防団旗・岩手県消防旗・消防庁消防旗・財団法人日本消防協会旗（計5点）

平成23年度の行事予定

市民参加展

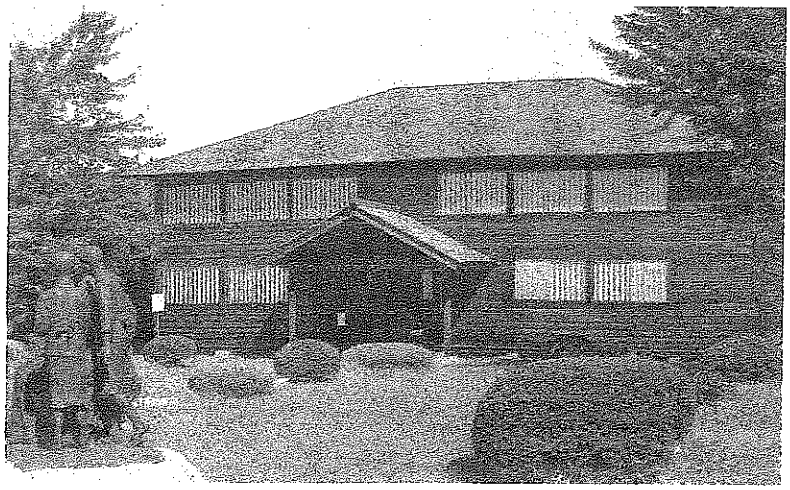
・中村秀雄コレクション 鶏グッズ展	平成23年 4月19日～5月29日まで
・鎌田隆コレクション　昭和陶磁器展	平成23年7月1日～8月28日まで
・澤井敬一コレクション展 昭和ポスター展	平成23年10月16日～11月28日まで
・第3回 旧暦ひな祭り展	平成24年 3月10日～4月10日まで

第26回企画展

・「盛岡藩・志和稲荷街道を探る」　平成23年9月1日～10月9日まで

※各展の名称は仮称であり、内容の変更もありえます。詳細は広報『もりおか』へ掲載いたしますので、そちらを御覧ください。

盛岡市所在指定・登録文化財紹介㉖



旧渋民尋常小学校

明治17年（1884）、住民の寄付により旧渋民村愛宕（現在の玉山区渋民）の愛宕神社脇に建設されました。大正2年（1913）には松内分教場として解体移転、約50年間使用され、分教場の閉鎖後は松内地区公民館として使用されてきました。昭和42年（1967）、老朽化により通り壊しが検討されましたが、石川啄木の母校であり、代用教員時代に教鞭をとったゆかりの校舎であることから、石川啄木記念館敷地内に移築保存され現在に至ります。現在の建物は、移築や移転のため建築当時とは異なる部分もありますが、現存する学校校舎としては県内で最も古い建物のひとつです。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』、2008。

となんの昔ばなし二十六

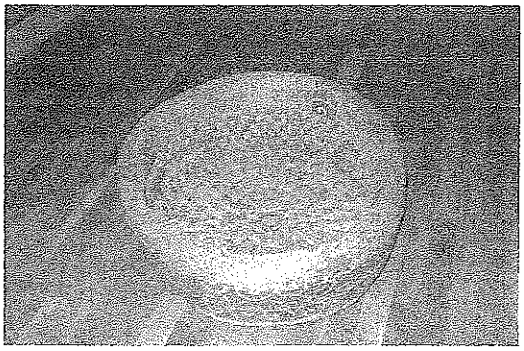
『勘六岩』

大ヶ生の鬼ヶ瀬山の頂上付近には大岩が露出している場所があり、一大壮観を呈しています。そこに大きい岩窟があり、そこには泉が湧いていて、夏清涼の気がみなぎっているといいます。

天正の頃、南部氏に滅ぼされた斯波氏の遺臣勘六という人物がこの岩窟にこもり、山賊をははたらいたことからここが勘六岩といわれるようになりました。

出典　都南歴史民俗資料館『となんの民話』、都南村、一九八五。

資料は語る㉖



嬰児籠（エジコ）

嬰児籠は「エジコ」や「エンツコ」と呼ばれたりします。昔は農作業が忙しく、「エジコ」に赤ん坊をひとり入れ、農作業に出て行くこともしばしばでした。

この様子を精緻に描写しているのが大牟羅良『ものいわぬ農民』（岩波書店、一九五八）です。大牟羅は、戦後すぐの農村の風景を見事に描写してくれます。